

平成 30 年 2 月 14 日

各 位

いわき信用組合

「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」大臣表彰を受賞しました。

当組合は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が認定する「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」に選ばれ、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）より表彰されました。

表彰式は、平成 30 年 2 月 14 日（水）中央合同庁舎（東京都千代田区永田町）8 号館の内閣府特命担当大臣（地方創生）室でおこなわれ、梶山弘志内閣府特命担当大臣から当組合理事長が表彰状を拝受して参りました。

記

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部による金融機関等の「特徴的な取組事例」の公表は、平成 27 年 12 月、平成 29 年 1 月におこなわれており、今回が 3 回目。

対象となるのは都市銀行・信託銀行・地方銀行・第二地方銀行・信用金庫・信用組合・政府系金融機関・JA・生命保険会社・損害保険会社・証券会社・官民ファンド等です。

地方創生への取組状況に係るモニタリング調査の中から「地方創生に係る具体的事業を推進するに当たり、特徴的な取組事例を公表することで、それを参考に創意工夫のある取組が各地域に広がることを期待して」まち・ひと・しごと創生本部事務局が選定し、公表、顕彰するものです。過去 2 回の公表事例には福島県に本店がある金融機関は選ばれていませんでしたが、今回は当組合と福島銀行の取組が選定されました。

当組合は「民間資本 100%による『地域商社事業』の創業支援」の取組みが評価されました。

<資料添付>

以 上

* 本件に関するお問い合わせは、いわき信用組合地域開発部、担当：本多（☎0246-92-4166=直通）にご連絡ください。

「民間資本100%による『地域商社事業』の創業支援」

(いわき信用組合)

1. 取組の概要

- 新しい「いわき」のブランドイメージを確立することで地域産品の高付加価値化をすすめ、原材料となる1次産品生産者も含めた地域全体の「稼ぐ力」を涵養しようとする取組。「ブランド化」や「売れる商品」のプロデュースを中核的に担う地域商社の起業から運営までをシームレスに支援。

2. 取組を始めるに至った経緯、動機等

【動機】1次産業は危機的状況との認識から、トップダウンにより「食と6次化支援」を目的とした一貫通貫のスキーム作りに着手。その中で、ブランド確立による高付加価値化を図りつつ、地域主導で原材料生産から商品開発、販路開拓までおこなう「地域商社」の必要性を痛感。

【経緯】上記の問題意識を有していたところ、当組合が実行委員として参画するビジネスプランコンテストに応募したIターン事業者の「地域商社」企画に出会う。その実現に向け、バイヤー経験豊富な地元事業者とのマッチング、事業計画の精緻化など支援を実施し地域商社立ち上げに貢献。

3. 具体的な取組内容

【経営体制の確立支援】設立にあたっては、販売や調達、商品企画といった物販機能の強化のため、当組合の取引先で実績のある経営者を共同代表とする経営体制を提案。同氏のバイヤー経験から得た知見と、同氏経営のセレクトショップの販売データに裏打ちされた消費動向、ネットワークをいかした販路開拓など、スタート時から確実に事業推進できる経営体制の構築をサポート。事業計画作成では、事業者、当組合に加えて、ファンを共同運営するフューチャーベンチャーキャピタル(株)も参画。多くのスタートアップにかかわった同社知見も加え、実現可能性の高い計画を作成。

【従業員や製造委託先の確保支援】地域商社のスタッフの確保、開発商品のOEM先事業者の紹介など、創業実現のための様々な課題に対して専門部署が支援。また、創業後も関係者間の情報交換やビジネスマッチング、新製品発表の場の提供。「ヒト、モノ、カネ、情報」の面で継続的に支援。

【資金面での支援】出資については全国信用協同組合連合会等とともに平成27年10月に設立した「磐城国(いわきのくに)地域振興ファンド」から200万円、また、創業資金として300万円の融資を実行。金融面でもサポートするとともに、当組合の本業にも貢献する取組となっている。

4. 実施にあたり工夫した点(金融機関の役割・推進体制面・PDCAサイクル面等)

【迅速で「尖った」ビジネス展開を企図した資本構成】多くのステークホルダーを有する“総花的な商品づくり”に陥ることなく、強い個性をもった“尖った商品づくり”を実践するために、あえて民間資本だけで事業を創業。迅速な意思決定のできる組織作りを目指した。

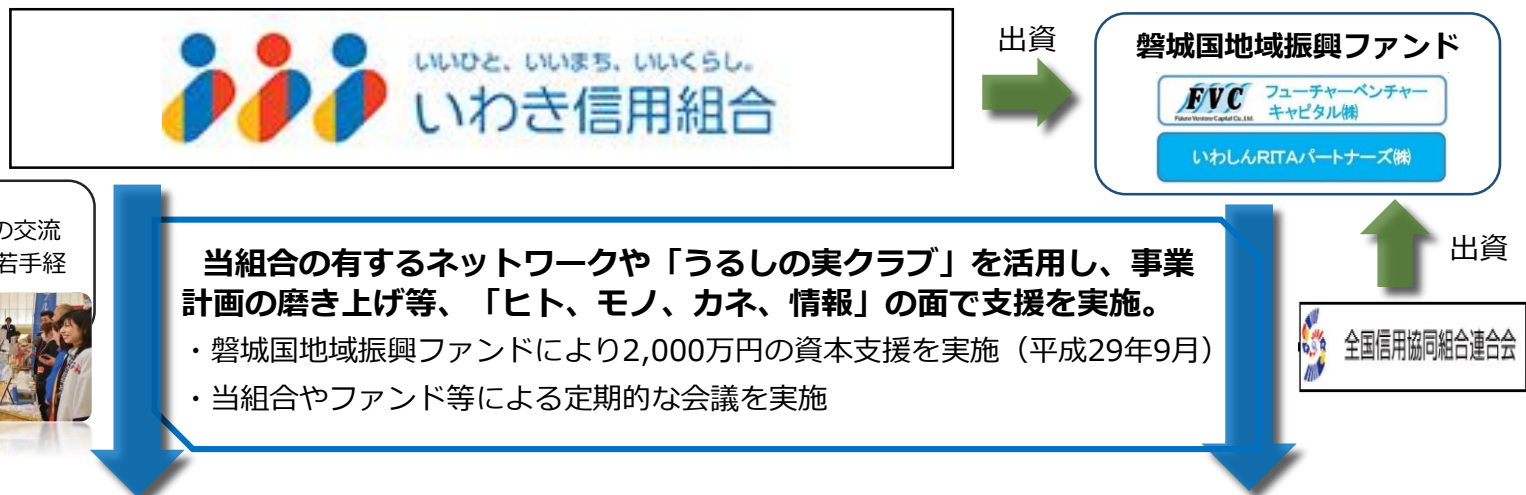
【既存取引先とのシナジーの追及】既存取引先をOEM先に紹介するなど、地域企業の収益力向上にも資するハンズオンを実施。地域金融機関の持つネットワークの活用により、地域のブランディング→地域産品の高付加価値化→地域1次産品事業者の高所得化の実現を目指す。また、当社のもっているネットワークにより高付加価値商品野菜(イタリア野菜栽培)の栽培・供給にも取り組むなど、付帯事業での効果も現出しつつある。

5. 取組の成果(取組中の場合は目標値・KPI等)

- 「2017しんくみ食のビジネスマッチング展」で地元の老舗食品会社と共同で開発した新製品を発表。また当組合がマッチングした地元加工業者の殺菌技術を生かした製品はネット通販大手や地元観光施設などでの販売が始まり、当組合の取引先の経営支援に寄与する一面も出てきている。

6. スキーム図等(図表・写真等も必要に応じて貼付)

【背景】 当組合は、地域の1次産業について、従前（平成27年4月）より「食と6次化支援」を実施してきたところ。その中で、1次生産者と加工・販売事業者をつなぎ、商品開発から販路開拓を行う専門機関（地域商社）の必要性を痛感。同様の問題意識を持つIターン事業者に出会い、当組合において、当該事業者の「地域商社事業」の創業を支援。



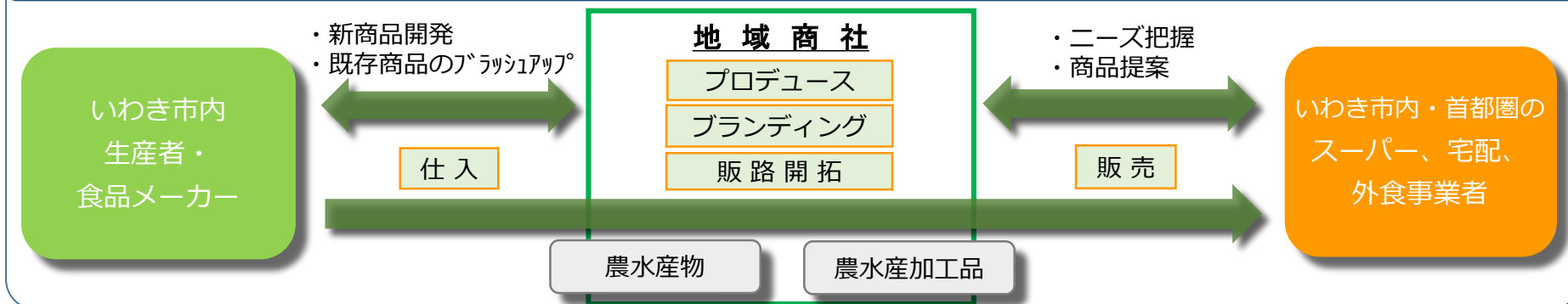
うるしの実クラブ

地元企業の経営者及びいわき信用組合の交流会。600名以上の会員が所属。定期的に若手経営者の会等を開催。



第11回
ビジネスマッチング交流会

いわき市内生産者・食品メーカーの営業・マーケティング機能を担う、「地域商社事業」の創業支援



生産者の高齢化及び原発事故による風評被害等の危機に瀕している地域産業の「6次化」及び地域資源の活用による地域全体の活性化を目指す。